

青森県原子力防災訓練に参加しました

東通原子力発電所は、平成24年11月3日(土)、青森県、東通村、むつ市、横浜町、野辺地町および六ヶ所村が主催する「青森県原子力防災訓練」に参加しました。

この訓練では、当発電所における原子力災害発生に備え、住民への情報伝達訓練や広域避難訓練、緊急被ばく医療訓練等が実施されました。

また、当発電所内では、休日の当番体制において、電源車による電源確保訓練や運転操作訓練、傷病者の搬出訓練等を実施しました。

～当社が参加した主な訓練項目～

運転操作訓練 (東通原子力発電所)



全交流電源喪失を想定した運転操作訓練

傷病者搬出訓練 (東通原子力発電所)



放射性物質の汚染を伴う傷病者への応急措置および搬出を行う訓練

緊急被ばく医療訓練 (青森市)



救護所の設置や東通村から避難してきた住民に対し、放射性物質の汚染検査等を行う訓練

傷病者搬送受入訓練 (むつ市)



発電所内で発生した傷病者を、むつ総合病院に搬送受入れする訓練

当発電所では、今後も万一の原子力災害発生に備え、国や県、関係市町村等と連携しながら、様々な訓練を実施し、緊急時における対応能力の向上を図ってまいります。

原子力規制委員会が東通原子力発電所を視察しました

原子力規制委員会の^{ふけた とよし}更田豊志委員は、平成24年10月5日(金)、東通原子力発電所を視察しました。

更田委員は、津波対策としての防潮堤設置工事や建屋扉の水密化、電源対策としての大容量電源装置の配備等、安全対策の進捗状況を視察し、「今の段階で考えられる対策は取られている。」と述べました。

また、今後については、「原子力規制委員会では、来年夏に向けて新しい安全基準を作ることとしており、改めてその基準にかなっているかどうかを判断していく。」と述べました。



大容量電源装置の説明を受ける更田委員(左端)

図上演習を実施しました

東通原子力発電所では、平成24年10月4日(木)、定期点検に伴うプラントの停止操作中に地震・津波が発生し、全交流電源が喪失するという厳しい事象を想定して、「図上演習」を実施しました。

演習では、故障や事故の進展を予測しながら、緊急事態に要求される対応や対策について、事前に担当各課が検討し、その後の全体討議において発電所としての対応方針を検討しました。

当発電所では、今後も様々な訓練や演習を繰り返し実施し、経験を積むことで災害対応力を向上させてまいります。



図上演習とは

- ・図上演習とは、机上で行うイメージトレーニング型の演習方法です。
- ・演習では、事前の説明会において、想定する災害や事象の経過などの全体像を提示したうえで、担当各課で対応の検討や課題抽出を行い、全体討議で対応方針を検討します。
- ・タイムスケジュールを設定して行う通常の訓練と違い、じっくりと時間をかけて検討・討議を行うことができるのが特徴です。